

市民文芸

短歌

令和六年度阿南市文化祭
秋季短歌誌上大会 選

中学生短歌入賞者

一位 茄子の馬なんなく作るおじいちゃんぼくは
となりで悪戦苦闘 新野中一年 岩野 莞爾

二位 休みの日勉強家事の苦勞おえ自由の時を楽
しみけり 福井中二年 新濱 郁弥

三位 勝負する高校球児に笑顔咲く真剣な瞳にエ
ールを送る 福井中一年 高鶴 穹

入選

夏の夜眠れずに見たオリオン座冷たい月が僕を見
つめた 新野中二年 池田 蒼牙

ひぐらしの鳴き声すだく夕暮れの帰路に待ちたる
うちの飼猫 新野中二年 佐々木愛華

夏休み祖父が育てたすいか玉姉と一緒に夏はんぶ
んこ 新野中二年 笹田 咲空

炎天下百メートルをあと三本日やけクリーム溶け
て流れる 新野中三年 西村 優作

玄関でじつとこつちを見るカエル我ら姉弟の守り
主かな 新野中三年 宮野 真衣

かき氷秒で身体を凍らせるやがて涼しき笑顔が三
つ 新野中三年 湯浅 正大

俳句

阿南市俳句連合会 選

春耕や畝高くして鳥遊ぶ

春の風風車ゆつくり廻りけり

蒼天に切り込むごとくつばめかな

葉桜や辻に奥まる石地蔵

沈む村見守る桜七十年

喜喜として撮られ上手や花の下

窓ガラスすべる雨粒春の雷

石鱖玉夢の一つを持つてきて

黒々とひと塊の蛙の子

生き方は母似でありし春の草

川柳

阿南川柳会 選

よく笑うシニアの会は若返る

とりあえず米送つてな孫の声

骨太の字だ人間が見えてくる

惚れました彼氏の声と二枚目に

度忘れへ脳検索に暇がいり

正誤表直しなおして生きている

老人カー絶対押さぬ父の意地

一般応募

いい笑顔元気な嫁は宝物

路の墓独りいただく母の味

クラス会泉のように湧く話題

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

早春即事

寒氣時和雪後天

遊禽好韻短垣邊

相呼噪噪如人語

暫去還來花朵前

老いを嘆ず

夕陽春處暮山連

惜送徂春逝水邊

此路遠來還不得

少年早已杖朝人

梅雨書懷

紫陽花發雨中鮮

閣閣蛙聲何處邊

枇杷黃熟蝸牛篆

傾傘小園情緒牽

大地 和子

寒氣 時に和らぐ雪後の天
遊禽の好韻 短垣の辺
相呼んで噪々 人語の如し
暫く去つて還来たる花朵の前

田中 公

夕陽春く処 暮山連なり
惜んで徂春を送る 逝水の辺
此の道遠く来たりて還り得ず
少年早く已に杖朝の人
※杖朝―八十歳

高橋 静雄

紫陽花 発いて雨中に鮮やかなり
閣々たる蛙声 何れの処の辺ぞ
枇杷は黄熟 蝸牛は篆す
傘を傾く小園 情緒牽く

